

# 日出生台での日米共同訓練は中止せよ

大分県の日本共産党地方議員団は17、18日の両日、県民の平和と暮らしにかかわる要望を国に提出し、関係省庁と交渉しました。堤栄三、猿渡久子の両県議、日隈知重日田市議、斉藤由美子大分市議、岩崎貴博元大分市議、美馬恭子別府市議、荒木ひろ子、川内八千代の両中津市議らが参加しました。

防衛省との交渉で堤氏らは、県内の自衛隊分屯地で進む大型

## 防衛省などに要望書渡す 省庁交渉 2024



▲ 防衛省に要望書を手渡す日隈市議ら大分県党地方議員団（衆議院会館、6月18日）

弾薬庫建設やミサイル連隊配備など戦争準備の実態を「有事の際は標的にされる」「町のご真ん中につくるな」など住民の声を届けて告発。28日から始まる日出生台演習場などで実施される、危険な軍用機オスプレイの飛行をとまなう日米共同訓練「レゾリュート・ドラゴン」の中止を強く求めました。

厚労省へは生活保護基準額の引き上げや冬季加算の拡充、夏季加算の創設などを要請。猿渡氏が「生活保護基準を決めた当時と比較すると、電気料が月5千円値上げ、食料品も20〜30%値上げ」と指摘すると、厚労省の担当者は「令和6年度に限り一人当たり月額1千円を加算した。ご理解いただきたい」と説明。日隈氏らが「エアコンがない、エアコンがあっても電気料が高くて使えない。熱中症になったり、持病が悪化して医療費が多くなるという悪循環になっている」と実態を突きつけると、担当者は「家計調査で夏季の光熱費が、年平均の支出額と比べ増加している実態は確認できない」と、生活保護世帯の実態を把握しようとしません。

## 国土の戦場化許さぬ 日出生台演習場前

# 日米共同訓練に抗議する集会を開く

陸上自衛隊と米海兵隊の最大規模の訓練「レゾリュート・ドラゴン」が28日、九州、沖縄の各地で始まりました。日出生台演習場ゲート前でこの日、抗議集会が開かれました。

大分県内の労働組合、民主団体でつくる「米軍演習に反対する各界連絡会」の呼びかけで、約40人が参加し「日米共同訓練反対」「オスプレイは来るな」と抗議の声を上げました。

地元由布市で米軍演習の監視を続ける浦田龍次さんや珍珠町の畜産農家、衛藤洋次さんらがマイクを握りました。衛藤さんは「沖縄、九州全土を戦争に巻き込む訓練に危機感を持った。『戦争はだめだ』の声を上げ続けよう」と呼びかけました。

日隈市議ら日田・珍珠平和委員会のメンバーも参加しました。



▲ くり返し離着陸するオスプレイ（7月28日）



▲ 抗議の声を上げる集会参加者（由布市・日出生台演習場ゲート前）